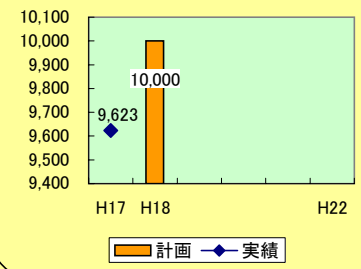
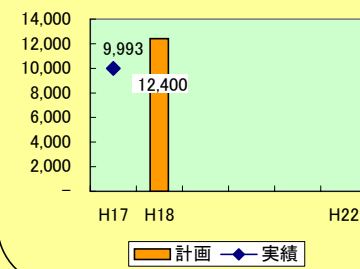


平成18年度 伊丹市行政評価 ～施策評価編～

施策コード	1305	施策名	高齢者の健康づくりと教養						
「これから5年間のまちづくりプラン」における位置付け	視 点			項 目					
	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現			きめ細かな地域福祉の推進					
評価担当部局名	健康福祉部	関連部局	—		事業費合計 (百万円)	H17(決算) 708.6	H18(予算) 676.0		
目指すべき目標・状態	高齢者が住み慣れた地域で健康で生き生きとした生活ができるよう支援する。								
施策を取り巻く環境	本市の総人口に占める65歳以上人口の割合が、平成16年は15.5%、平成17年は16.3%と増加傾向にある中、高齢者は健康で住み慣れた地域の中で生き生きとした生活を送りたいと願っています。このため、健康づくりとしての介護予防事業や生きがいや仲間づくりとしての老人クラブ活動や各種教養講座の開催、市バス無料乗車証の支給等の支援事業が望まれています。								
成果を測定する指標 (上げた方が良い指標の場合「↑」、下げた方が良い指標の場合「↓」を指標名の右側に記載。 H22年度計画値欄は、それ以前に終期を迎えるものはその年度の計画値。)	指標名(単位)		算式等		現状 (H17年度)	H18年度		H22年度	計画達成率 (%)
						計画値	実績値	計画値	
	①	事業参加者数(人)	↑	施設利用者の増を図る	9,623	10,000	—	—	—
	②	老人クラブ会員数	↑	会員数の増を図る	9,993	12,400	—	—	—
③									—
評価結果	19年度から実施します。		評価の判断理由		施策全体の評価については、今年度設定した施策目標・成果指標の達成状況などを実績に基づき総合的に判断して行うこととなります。今年度は、評価実施初年度でそうした実績に基づく評価ができないため、来年度から評価を実施することとしています。				
各指標の目標達成状況									
	①事業参加者数(人)								
									
	②老人クラブ会員数								
									

実施している事務事業と評価結果				
No.	事務事業名			
	活動指標(単位)	H17計画値	H17実績値	H18計画値
①	高齢者市バス無料乗車証支給事業			
	バス無料乗車証交付人数(人)	15922	16804	15126
②	老人クラブ等補助事業			
	老人クラブ会員数(人)	12344	9993	10200
③	高齢者憩のセンター管理事業			
	利用者数(人)	—	2142	3000
④	神津福祉センター管理運営事業			
	施設年間利用者累計(人)	88000	84843	89000
⑤	高齢者の生きがいと健康づくり事業			
	参加者数(人)	—	8988	9000
⑥	老人福祉施設改修等事業			
	改修箇所数(箇所)	2	2	2
⑦	サンシティホール管理運営事業			
	施設年間利用者累計(人)	220000	204367	221000
⑧	原爆被爆者市バス無料乗車証支給事業			
	バス無料乗車証交付人数(人)	30	27	30
⑨				
⑩				
⑪				
⑫				
⑬				
⑭				
⑮				

※事務事業名に【新規】の表記がある事業はH18年度開始事業、【未実施】の表記がある事業はH19年度以降に開始予定の事業です。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130501		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。				
事務事業名	高齢者市バス無料乗車証支給事業		担当部局・課	健康福祉部 地域福祉課			
事業内容	高齢者の社会参加の促進を図るため、申請により70歳以上で市内に引き続き1年以上お住まいの方に市バスの無料乗車証を交付する。		事業開始(予定)年度				
			昭和46年度				
			事業終了(予定)年度				
			—				
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現				
		項目	きめ細かな地域福祉の推進				
		施策	高齢者の健康づくりと教養				
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。						
事業の目的	対象者の社会参加の促進		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 援護措置等給付関係費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)				
	事業費	569,861千円	財源内訳				
			国・県補助金等	—			
			市 債	—			
			その他(使用料等)	—			
			一般財源(市税等)	569,861千円			
	投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
	経費合計	570,718千円		経費合計	530,857千円		
	活動指標	指標名(単位)	バス無料乗車証交付人数(人)		計画と実績	年度	H17年度
意味・算式等		—		区分			
				計画値		15,922	15,126
				実績値		16,804	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130502		あり H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	老人クラブ等補助事業			担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課			
事業内容	単位老人クラブ及び伊丹市老人クラブ連合会が行う生きがいと健康づくりのための多様な社会活動に対し、補助金を交付する。			事業開始(予定)年度				
				平成3年				
				事業終了(予定)年度				
				—				
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	高齢者の健康づくりと教養					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	高齢者の知識および経験を生かし、生きがいと健康づくりのための社会活動に対し補助金を交付することにより、老後の生活を豊かなものにするとともに明るい長寿社会づくりに資する。			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 高齢者生きがい対策事業費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	19,199千円	財源内訳		事業費	19,499千円	財源内訳	
			国・県補助金等	14,399千円			国・県補助金等	14,624千円
			市 債	—			市 債	—
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	4,800千円			一般財源(市税等)	4,875千円
	投入人員	0.40人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.40人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	3,426千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	3,426千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	22,625千円		経費合計	22,925千円			
	活動指標	指標名(単位)	老人クラブ会員数（人）			計画と実績	年度 区分	H17年度
意味・算式等		年度末会員数			計画値		12,344	12,350
					実績値		9,993	

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130503		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。				
事務事業名	高齢者憩のセンター管理事業		担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課			
事業内容	伊丹市高齢者憩いのセンターの管理		事業開始(予定)年度				
			昭和56年				
			事業終了(予定)年度				
		—					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現				
		項目	きめ細かな地域福祉の推進				
		施策	高齢者の健康づくりと教養				
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。						
事業の目的	高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等の場を提供することにより、高齢者の心身の健康増進を図る。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 老人福祉施設運営費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)				
	事業費	96千円	財源内訳				
			国・県補助金等	—			
			市 債	—			
			その他(使用料等)	—			
			一般財源(市税等)	96千円			
	投入人員	0.01人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	86千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
経費合計	182千円		経費合計	182千円			
活動指標	指標名(単位)	利用者数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度
	意味・算式等	年間利用者数	区分		計画値	—	3,000
			実績値		2,142		

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130504			あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	神津福祉センター管理運営事業			担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課				
事業内容	○教養講座等の開設に関すること ○文化活動および趣味、娯楽その他のレクリエーションに関すること ○文化、教養、福祉等に関する活動のため、施設をその利用に供すること ○機能回復訓練に関すること ○高齢者の相談			事業開始(予定)年度		評価結果 B 上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。			
				平成11年度					
				事業終了(予定)年度					
—									
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
		項目	きめ細かな地域福祉の推進						
		施策	高齢者の健康づくりと教養						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。									
事業の目的	高齢者をはじめとする市民の文化、教養並びに福祉の向上を図る。			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 老人福祉施設運営費 (目) 老人福祉総務費				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)					
	事業費	30,636千円	財源内訳		事業費	27,650千円	財源内訳		
			国・県補助金等	2,859千円			国・県補助金等	2,580千円	
			市 債	—			市 債	—	
			その他(使用料等)	820千円			その他(使用料等)	165千円	
			一般財源(市税等)	26,957千円			一般財源(市税等)	24,905千円	
	投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		
	人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		
	経費合計	31,493千円			経費合計	28,507千円			
	活動指標	指標名(単位)	施設年間利用者累計（人）			計画と実績	年度	H17年度	H18年度
意味・算式等		施設利用者の増を図る			区分		計画値	88,000	89,000
					実績値		84,843		

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130505		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	高齢者の生きがいと健康づくり事業		担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課				
事業内容	長寿お祝いの会、高年者福祉大会（広く市民が老人の福祉についての関心を深め、かつ老人が自らの生活の向上に努める意欲を高めるとともに地域社会での生きがいづくり）、市長杯ゲートボール・グラウンドゴルフ大会（高齢者自らが健康の増進を図り、もって心身を鍛練し、明るく豊かな生活の向上に努める意欲を高める）の開催。		事業開始(予定)年度					
			—					
			事業終了(予定)年度					
				—				
この事業の 上位施策	これから5 年間のまち づくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	高齢者の健康づくりと教養					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	高齢者の生きがいと健康づくり事業		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 高齢者生きがい対策事業費 (目) 老人福祉総務費				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	8,988千円	財源内訳		事業費	8,000千円	財源内訳	
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—
			市 債	—			市 債	—
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	8,988千円			一般財源(市税等)	8,000千円
	投入人員	0.30人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.30人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	2,570千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	2,570千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	11,558千円		経費合計	10,570千円			
	活動指標	指標名(単位)	参加者数(人)			計画と実績	年度	H17年度
意味・算式等		長寿お祝いの会、高年者福祉大会、市長杯ゲートボール・グラウンドゴルフ大会への参加者数			区分			
					計画値		—	9,000
					実績値		8,988	

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130506		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	老人福祉施設改修等事業			担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課			
事業内容	老人福祉施設の目的や運営に合わせた改修事業を実施する。			事業開始(予定)年度	評価結果 C 上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。			
				—				
				事業終了(予定)年度				
			—					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	高齢者の健康づくりと教養					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	老人福祉施設の目的や運営に合わせた改修事業を実施し、利用者にとってより快適で便利な施設とする。			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 老人福祉施設整備費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	11,120千円	財源内訳		事業費	37,320千円	財源内訳	
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—
			市 債	—			市 債	—
			その他(使用料等)	7,500千円			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	3,620千円			一般財源(市税等)	37,320千円
	投入人員	0.15人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.15人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	1,285千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	1,285千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	12,405千円		経費合計	38,605千円			
活動指標	指標名(単位)	改修箇所数（箇所）			計画と実績	年度	H17年度	H18年度
	意味・算式等	適切な改修を実施するために箇所数を計画的に定める				区分		
						計画値	2	2
						実績値	2	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130507		あり H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。				
事務事業名	サンシティホール管理運営事業		担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課			
事業内容	○教養講座等の開設に関すること ○文化活動および趣味、娯楽その他のレクリエーションに関すること ○文化、教養、福祉等に関する活動のため、施設をその利用に供すること ○機能回復訓練に関すること ○高齢者の相談		事業開始(予定)年度				
			平成元年度				
			事業終了(予定)年度				
			—				
この事業の 上位施策	これから5 年間のまち づくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現				
		項目	きめ細かな地域福祉の推進				
		施策	高齢者の健康づくりと教養				
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。						
事業の目的	高齢者をはじめとする市民の文化、教養並びに福祉の向上を図る。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 老人福祉施設運営費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)				
	事業費	66,045千円	財源内訳				
			国・県補助金等	6,940千円			
			市 債	—			
			その他(使用料等)	1,165千円			
			一般財源(市税等)	57,940千円			
	投入人員	0.20人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	1,713千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
	経費合計	67,758千円		経費合計	53,181千円		
	活動指標	指標名(単位)	施設年間利用者累計（人）		計画と実績	年度	H17年度
意味・算式等		施設利用者の増を図る	区分	計画値		220,000	221,000
			実績値	204,367			

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130508		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	原爆被爆者市バス無料乗車証支給事業		担当部局・課	健康福祉部 地域福祉課				
事業内容	原爆被爆者の社会参加の促進を図るため、申請により一定の所得制限の範囲において被爆者手帳所持者に市バスの無料乗車証を交付する。		事業開始(予定)年度					
			昭和46年度					
			事業終了(予定)年度					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	高齢者の健康づくりと教養					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	対象者の社会参加の促進を図る。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 社会福祉費 (目) 社会福祉総務費 (事項) 援護措置等給付関係費				
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)					
	事業費	2,680千円	財源内訳					
			国・県補助金等	—				
			市 債	—				
			その他(使用料等)	—				
			一般財源(市税等)	2,680千円				
	投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)					
	人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。					
経費合計	3,537千円		経費合計	2,857千円				
活動指標	指標名(単位)	バス無料乗車証交付人数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	—			区分	計画値	30	30
					実績値	27		

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。